

(口先案内人)

(三味線弾き語り)

姜 信子×渡部八太夫＝旅するカタリ

『はじまりの時間をひらく歌』



無数の生き死にの物語は海に沈み山に埋もれ、でも、ほら、深い溜息が聞こえるでしょ。大きく揺さぶられた世界の裂け目で、隠されてきたこと語られなかったことがざわめいているでしょ。ざわめきが呼び出す、私のなかの深く遥かな場所に潜む声、あるいはかけがえない空白。

『生きとし生ける空白の物語』より

演目

- ◇石牟礼道子『苦海浄土』第二部・第三章「舟非人」、第四章「花ぐるま」より
しらぬいじょりり 不知火浄瑠璃「和子～人のこの世は長くして～」
- ◇姜信子『生きとし生ける 空白の物語』より 「ざわめくケガツ」

画・屋敷妙子
演・八太夫



姜 信子 きょう・のぶこ プロフィール

作家 横浜生まれ。
主な著書に、『葉郷ノート』(作品社)『フレ・ノスタルギーヤ』『ナミイ 八重山のおぼあの歌物語』『イリオモテ』(岩波書店)、『生きとし生ける空白の物語』(港の人)『はじまりはじまりはじまり』(羽鳥書店)『声 千年先に届くほどに』『現代説経集』(ぶねうま舎)『平成山椒大夫 あんじゅあんじゅさまよい安寿』(せりか書房)『路傍の反骨、歌の始まり 姜信子+中川五郎住復書簡』(港の人)など多数。路傍の声に耳傾けて読む書く歌う旅をする日々。



渡部八太夫 わたなべ・はちたゆう プロフィール

東京生まれ。
小学校教員として地芝居の復活に関わり、邦楽(長唄、義太夫、説経節)の道に入る。1997年「小栗判官一代記」で初舞台。2005年薩摩派説経節家元十三代目若太夫を襲名。2011年人形浄瑠璃 猿八座の座付き太夫として八太夫を名乗り、若太夫は廃業。義太夫節よりもっと古い文弥節を活用して古説経、古浄瑠璃の復活上演に取り組む。2015年より山伏祭文に源流を持つ「説経祭文」の現代的再生に取り組み、現在は石牟礼道子作品をはじめとして様々な物語を三味線で歌い語ることに挑戦している。

2021年 5月1日(土) 開場 13:30
14:00～

会場 游文舎 ホール 柏崎市穂波町1番25号
ヘルシービル2F

入場料 2,000円 入場料は講演会当日にお持ちください。



主催 文学と美術のライブラリー 游文舎 Web youbun.net 游文舎

お申し込みはお電話か、下記の申し込み書にご記入の上 FAXでお送りください。

Tel.0257-32-1238 Fax.0257-21-9261

旅するカタリ公演 参加申し込み書

お名前	ご住所	お電話番号